

街角トークで住民のみなさんに県政の様子などを伝える丸山慎一県議

Ⅱ 6月9日・東船橋地域



街角集会上で足を止め話を聞いてくれたみなさんから意見や要望を聞く丸山慎一県議

Ⅱ 6月17日・金杉地域



住民と日本共産党が街角トークで意見交換

船橋市内各地で日本共産党地域支部が街角トーク集会を開いています。丸山慎一県議が少し話をしてそのあとは集まってくれたり立ち止まってくれた人から意見や質問を聞き交流します。「国保料が高すぎる」「野党共闘はどう進んでいくのか」「ゴミを集める回数が減ると聞いたが、とても困る」「近くの角にカーブミラーを付けてほしい」など様々な要望や質問が出て盛り上がっています。

(出所)厚生労働省「過労死等の労災補償状況」各年版をもとに、関西大学名誉教授の森岡孝一氏が作成

過労死等の月残業時間別支給決定件数 (2011～16年度の累計)			
残業時間の区分	脳・心臓疾患	精神障害	合計
60時間未満	2	950	952
60時間以上～80時間未満	116	130	246
80時間以上～100時間未満	643	152	795
小計	761(48%)	1232(58%)	1993(53%)
100時間以上～120時間未満	367	294	661
120時間以上～140時間未満	235	210	445
140時間以上～160時間未満	124	118	242
160時間以上	141	282	423
合計	1628	2136	3764

人たるに値する生活ができるように

過労死の認定基準は月45時間を超えて残業時間が長く

政府の「働き方改革」では、月45時間、年360時間を残業時間の上限にしながら、例外として月100時間未満など過労死ライン(月80時間)を超える残業を認めています。年間では休日労働も含めて960時間まで残業させることが可能です。

しかしこの間、過労死と認定されたなかの53%が月100時間未満の残業時間となっていました(表参照)。

過労死の半数以上が残業月100時間未満

なるほど、脳・心臓疾患や精神障害の発生する危険が強まることから設定されたもので、月80時間という過労死ラインを超えても残業させることができる法律をつくることは、過労死の発生を容認するのと同じことです。

例外なく残業上限は月45時間に

上記の表をまとめた森岡孝二・関西大学名誉教授は、「労働時間は、『人たるに値する生活』を営むことを可能にする時間であるべきです。それ

でも過労死弁護士全国連絡会議が、現行の認定基準を月65時間以上に短縮するよう要求するなど、過労死をなくすことを前提としたとりくみが広がっています。

商工団体連合会婦人部が千葉県に暮らしと営業への支援を要請

千葉県商工団体連合会婦人部協議会(千商連婦人部)が千葉県にたいして、小規模事業者の暮らしと営

業の実態を伝えて要請を行いました。

要望項目は、業者婦人・家族従業者の実態調査、自家賃を認めない所得税法56条の廃止、10%への消費税増税中止、国民保険制度の充実の4項目です。

県側からは、「国が議論して決めたもの」「国の動向を注視していきたい」などの回答が多く、県自身が実態を調べて主体的に取り組んでいく姿勢は見られませんでした。

参加者からは「消費税が始まる前はたくさん仕事があ

あったけど、8%になってからは格段に減った」「地域で商売をしているが、認知症の女性を助けたり、子どもたちがトイレを借りに来るなど交流が培われている。こうした商店街への補助を増やしてほしい」「看板が古くなっても変えられないでいる商店などにリフォーム助成を実施してほしい」など、意見や要望が出されました。

千商連婦人部の対県要請に同席して県に十分な対応を求める丸山慎一県議

Ⅱ 6月4日・県議会会議室

